

ねん がつ にち
2023年3月19日

し じゅんせつだい しゅじつ
四旬節第4主日A

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

ヨハネ福音は、イエスが安息日にシロアムの池で、生まれつき目の見えない人の視力を回復するという奇跡を行った話を記しています。

この物語には、「見える」ということについて二つの側面が記されています。それは、実際に目で見ることと心の目で見ることの違いです。

それを象徴しているのは、今日の福音の終わりに記されている、目が見えるようになった人とイエスとの会話です。視力を回復した人には当然イエスの姿が見えていますが、それでもなおその人は、「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」とイエスに問いかけます。目の前に神の子は立っているにもかかわらず、見えても見えないのです。その心に向かってイエスは語りかけます。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ」。

心の目を開かれたこの人は、「主よ信じます」と信仰を告白します。

見えているのに見えない状態とはどのようなことなのか。福音はその少し前に、ファリサイ派の人たちと視力を回復した人とのやりとりを記しています。奇跡的出来事が起こったからこそ、この人を呼び出したにもかかわらず、ファリサイ派の人たちは、自分たちが作り出した枠を通してしか物事を見ることができていません。その枠からはみ出すものは、存在しないのです。ですから逆に、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と、いまの言葉で言えば逆ギレしたかのように裁きます。わたしたちは、自分の価値観に基づいた枠を作り出し、それを通じてのみ現実を知ろうとします。

同様なことがサムエル記に記されています。ダビデの選びです。預言者サムエルに、「人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」と神は語り

かけます。

ことし しじゆんせつ
今年ことしの四旬節しじゆんせつメッセージでシノドスの歩あゆみに触ふれた教皇きやうこうさま様は、こう記しるされています。

しじゆんせつ ひと みち げんじつ ひび ろうく きび
「四旬節しじゆんせつのためのもう一つの道ひと みちするべです。それは、現実げんじつと、そこにある日々ひびの労苦ろうく、厳きび
しき、矛盾むじゆんと向き合むうことを恐おそれて、日常にちじやうと懸かけ離はなれた催もよおしや、うっとりするような
たいけん な しゆうきやうしん に こ
体験たいけんから成なる宗しゆうきやうしん教しん心に逃にげ込こんではならぬ、ということです」

にんげん おも う だ わく つう げんじつ み しゆうきやう に こ
人間の思おもいが生うみ出だした柁わくを通つうじてのみ現実げんじつを見つめることも、また、宗しゆうきやう教しんに逃にげ込こ
むことにつながります。わたしたちは、心こころに語かたりかける主しゆの声こえに耳みみを傾かたむけ、柁わくを捨す
て主しゆご自身じしんをまっすぐに見つめるように招まねかれる主しゆに信しん頼らいし、主しゆとともに歩あゆんでいき
たいとおも
いと申おもいます。